

三省堂 国語教育

# ことばの学び

a new way of learning Japanese



特集

すすんで読書する子を育てる

vol.

22

毎年人気のセミナー 概要が決まりました!

第3回

# 2010 小学校国語教育セミナー

主催 三省堂

テーマ「自ら学び、自ら考える力をはぐくむことばの学び」

日時 2010年8月3日(火) 10:00~17:00

会場 中野サンプラザ(JR中野駅北口徒歩2分)

## ◆第一部 全体会 10:05~11:50

深谷圭助先生「辞書を引いて、自らの道を切り拓く」

10:05~10:55 講義  
10:55~11:30 Q&A  
11:30~11:50 まとめのお話

## ◆第二部 ワークショップ 13:00~15:30

- A 尾木和英先生 指導の基本から作文ざらい克服法まで(低学年)
- B 河野順子先生 いま求められるコミュニケーション力とは(低学年)
- C 吉川芳則先生 説明的文章の授業を知的に、楽しく!(中学年)
- D 足立幸子先生 リテラチャー・サークルで広がる読書の授業の楽しみ(高学年)
- E 高橋俊三先生 楽しい民話や古典、その語りと音読と群読と(全学年)
- F 高木展郎先生 「聴いて→考えて→つなげる」授業を生み出す(全学年)
- G 堀田龍也先生 授業を支援する教科書準拠型デジタル教材(全学年)
- H 北川達夫先生 フィンランド流 対話型指導法入門(全学年)

## ◆第三部 文化講演 15:45~17:00

平田オリザ先生「対話の時代を生きる」

15:45~16:35 講演  
16:35~16:50 質疑応答  
16:50~17:00 まとめのお話  
17:00~17:30 サイン会

※お申し込み方法など詳細につきましては、  
4月下旬より小社Webサイト(<http://sanseido.co.jp>)にてご案内いたします。

【お問い合わせ先】 三省堂セミナー事務局(TEL 03-3230-9241)



# 2010 夏季教育セミナー

国語(中学校対象)  
英語 同日開催

○日時 2010年8月4日(水) 10:00~16:00

午前の部(10:00~12:30) 講義・演習:三浦修一先生・長崎伸仁先生  
午後の部(13:30~16:00) 講義・演習:北川達夫先生・高橋俊三先生

○会場 中野サンプラザ

すぐ役立つ指導技法と身につく教養!

終日研修・講演・ワークショップ

主催 ILEC言語教育文化研究所(<http://www.ilec.jp/>)

特定非営利活動法人(NPO)

**ILEC** Institute of  
Language,  
Education &  
Culture  
言語教育文化研究所

# ことばの学び

三省堂 国語教育

a new way  
of learning  
Japanese



vol. **22**

## CONTENTS

- 2 巻頭エッセイ 何かを感じる心を育てるために 中井 貴恵

### 特集 すすんで読書する子を育てる

- 4 本の世界をひらく読み聞かせの魅力 高橋 美保  
6 教材から読書を広げよう 小谷田 照代  
8 必要な情報を選べる子どもを育てるために 宮脇 康一  
10 読書ができる子どもをはぐくむ学校図書館 渡辺 暢恵  
12 最近出たおすすめの本

### 実践交流

- 14 小学国語 想像したことを詩に書く  
～菜の花に心を寄せて～ 檜皮 道弘  
16 小学国語 自分の思いを伝え合う集団づくり  
～説明文から「表現する」技能を学ぶ活動～ 石坂 尚子  
18 小学国語 「言葉の力」  
～学び方を学ぶ～ 植島 佳子  
20 小学国語 取り組みやすい課題から始まる読むことの学習  
～学級の全員が学習課題を生み出す～ 西田 太郎  
22 小学書写 書写の活用力を育てるため  
～私の授業改善～ 塚本 保代  
24 中学国語 言語活動が生きる授業づくり  
～敬語の習得・活用を通して～ 前田 和子  
26 中学書写 書写の授業における年賀状の作成  
～毛筆による実践～ 伊澤 幸子

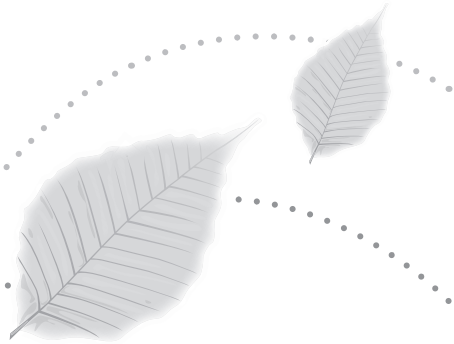
- 28 子どものことばが教えてくれたこと 第2回 鳥になって  
30 ことばが辞書に入る瞬間<sup>とき</sup> 第8回 「音」と「文字」を連動させる  
32 ことばの遣い手 第2回 脚本家のことば

- 33 編集後記

表紙イラスト  
安村 彩

# 何かを感じる心を育てるために

中井 貴恵



一冊の絵本に魅せられて始めた「大人と子どものための読みかせの会」の活動も十年を過ぎた。活動を始めた翌年二〇〇〇年は「子ども読書年」なる年で、子どもたちに読書の習慣を身につけてもらおうと、政、官、財、教育、出版界をあげて「読書」に力を入れた年であった。公演に行く先々で、朝読という始業前の読書タイムや、読書週間に〇冊の本を全児童が読破することなど、各学校の取り組みを熱く語られたものだった。

思えば私自身、活字を読むのが遅く読書は苦手で、読書感想文や期限を決められて本を読まされたり、冊数を競い合ったりする読書は、苦痛以外の何ものでもなかった。はたして今の子どもたちは、本当にこの強制的とも言える読書を楽しんでいるのだろうか、ふと疑問に思った。

その読書年から十年たった今も、公演の冒頭で変わらず子どもたちにこんなことを聞いている。

「本を読むの、好きな人？」

すると、はーい！ とたくさん手が挙がる。しかしよく見てみると、手を挙げているのは圧倒的に低学年の子どもたち。次に「じゃ、正直言って、本読むの嫌いな人？」と聞くと、数名の子が先生の顔をうかがいながら手を挙げていいものか迷っている。なぜなら、本を読むのが好きな子⇨良い子、嫌いな子⇨悪い子というレッテルを先生に貼られるからだ。「いいのよー。だって、算数

なかい きえ 女優/エッセイスト

'78年映画「女王蜂」でデビュー。

朗読公演「音語り」を全国で展開中。今春、

小津安二郎映画を題材にした東京公演開催。

公式サイト <http://nakaikie.com>

好きな人もいれば苦手な人もいる。体育だってそうでしょ？ 本読むの嫌いでもおかしくないよ。」  
そう言うと、わあーっと手が拳がる。ほとんどが高学年の子どもたちだ。見てのとおり、読書離れは中学年を境に進んでいるのだ。

その一つの原因は、その年齢を境に大人が子どもに「声を出して本を読むこと」をしなくなるからではないかと、私は思っている。「いつまで大人に読んでもらってるのよ」「自分で読みなさい」と大人は勝手に読むことを放棄する。しかし子どもたちは、いくつになっても大人に本を読んでもらうのが大好きなのである。

私たちの読みきかせは、私が出して物語を読み、同時にしかけたつぷりの手作りの大型絵本を見てもらう。そして一人で本を読んでいるときには聞こえてこない音楽もいっしょに聴いてもらい、小さな絵本を自分の心の中で何倍にも大きな世界にしてもらうのだ。大切なのは物語を聞いて何を思ったか、何を感じたか。後日、この間聞いたお話の本ってどんな本なんだろうと、本を手にとってくれたらしめたものである。

私たちのレパートリーの一つ『ずーっとずーっただいすきだよ』は、愛犬の「死」を通して「命の尊さ」「愛することの大切さ」を伝える物語だ。一年生の教材になるのだから文章は平明でわかりやすい。しかし物語が放つメッセージはとても奥

深い。大人の心をも打ち「愛すること」の本当の意味を改めて考えさせられる。年齢差のある一年生と、六年生では同じ物語を聞いても何を感じるかは全く違ってくる作品なのである。

本の裏表紙に「○○向き」という表示があるが、六年生が「低学年向」と表示してある本を買いたいと言ったら、たいていの親は「ダメ！」と言って買わないだろう。しかし逆であったらどうだろう？ 一年生の子が「高学年向き」の本を買ってと言ったら、「えらいねー」とレジへ直行。即お買い上げとなるだろう。しかし、本は体のサイズにあつた洋服選びと同じではない。年齢に関係なく、読みたいと思つた本を読ませてあげてほしい。大人が気がつかないような大切なメッセージを子どもたちは本から確実に受け止めているのだ。

情緒豊かな子どもになるからと読みきかせをし、短時間で長文を読めれば受験の時に有利だからと読書をさせる。なんと悲しい発想であろうと思う。お母さんと布団の中でくっつきながら怖いお話を読む楽しさ、大好きな物語だから同じ本のページを幾度もめくる喜び。読書はもつと単純であるべきだ。

今は読書が嫌いでもいつか忘れられない一冊と巡り会うことだってある。読書嫌いだった私が今本とこんな関わり方をしているように、本と人の出逢いは計り知れないものなのだから。

# すすんで読書する子を育てる

昨今読書指導の充実を国語科に求める声が高まっています。

この特集では、自らすすんで読書する子どもを育てるために何が必要なのかを、国語科の指導と環境づくりの観点から提案します。

## 本の世界をひらく読み聞かせの魅力

群馬県高崎市立倉賀野小学校

高橋 美保

### 一 はじめに

すすんで読書をする子どもを育てるためには、子どものニーズに合った、心に響く本をたくさん紹介することである。そのためには、読み聞かせは大変有効であると考ええる。

読み聞かせは、読み手を仲立ちにして、子どもたちが本と出会う場である。また、本を読み聞かせてもらうことによって、子どもたちが、そこから「何か」を感じたり考えたりしながら心を豊かにしていく場である。

そこで、学校では、授業中はもちろん、朝や帰りの会、放課後を使って、読み聞かせを工夫し、さまざまなジャンルの本を扱うことが大切である。

### 二 読み聞かせの魅力

読み聞かせには、温かさがある。読み手の音声を通して、その人柄や体温が伝わってくるようである。読み手と聞き手は、読み聞かせという活動を通して、ゆったり優しく流れる時間を共有することができる。

読み手の楽しみは、子どもたちの反応である。同じ学年でも、学級によって雰囲気が大きく違う。同じ本を使って読み聞かせても、反応が違うからおもしろい。特に、低学年の子どもたちが、本の中で繰り返される決まったフレーズに気付き、読み手が「どうぞ、言って」と目で合図したときに、一斉に子どもたちがそれを声に出す瞬間は、読み手と子どもたちとの一体感を感じるときである。

そして、読み聞かせの主役は本である。読み手は、決して本の邪魔をしてはいけない。したがって、極端な演出や声色は使わない。聞き手の表情や反応を確かめながら、声の強弱・間の取り方・速さを調節したり、ページをめくるタイミングを工夫したりする。読み聞かせは、ともに読んでいる本のよさを、読み手の声を使って、まるごと子どもたちに伝えるものである。

### 三 読み聞かせの工夫の実際

#### (一) 教師による読み聞かせ

##### ①実物投影機を使って

私のクラスには、同僚教師手作りの実物投影機がある。ズーム機能も付いているので、拡大投影機にも早変わりする優れ物である。

実物投影機は、授業や読み聞かせのときは、本に描かれた挿絵や写真を見せるために役

立っている。『アリからみると』（桑原隆一／文 栗林慧／写真 福音館書店）の本には、アリから見た昆虫が迫力満点に写っている。

そこで、ズーム機能を使ってさらに細部を映す。すると、新しい発見がたくさん出てくる。読み聞かせの際に、本の挿絵や写真から、情報を読み取ったり想像を広げたりするためには、実物投影機の効果は抜群である。

② 大型絵本を使って

大型絵本の読み聞かせは、子どもたちが楽しみにしている活動の一つである。大型絵本は、市町村の図書館で借りられる。読み聞かせには、大型絵本と通常の絵本の二冊の本があるとよい。人数も二人必要である。一人は、大型絵本のめくり手、もう一人は、通常の本を使って読む読み手である。その際、くれぐれも一人二役は避けたい。絵本が大きいいため、ページのめくりそこねや、読み手の体や手が



右…実物投影機  
下…実物投影機を  
使った読み聞かせ



聞き手の視界を遮ることがあるからである。

かつて『うさぎのくれたバレエシューズ』（安房直子／文 南塚直子／絵 小峰書店）を読み聞かせたことがある。そのとき、子どもたちに、表紙と裏表紙を見開きで見せたところ、歓声が上がった。この本は、表と裏表紙で一枚の絵になっている。そこには、大きな美しい桜の花びらと女の子とうさぎたちが幻想的に描かれていた。子どもたちは、本の魅力ある世界に確実に引き込まれていった。

(一) 子ども同士の読み聞かせ

子ども同士の読み聞かせでは、子どもが読み手となり、本を読み聞かせる楽しさを直接体験できる。聞き手から、笑顔や「楽しかった」という声が返ってくる時はうれいものである。広い意味で読み聞かせは、本という媒体を通して、子ども同士のコミュニケーションを図る一つの手段にもなり得る。

業前活動で、図書委員会の高学年の子どもたちが、各クラスに読み聞かせに入ることがある。特に低学年の子どもたちは、上級生から本を読んでもらえることを、とても楽しみにしている。読み聞かせは、単なる文字の音声化ではなく、本の内容を通して読み手の温かい心を、聞き手に伝えるものだからである。

また、同じクラスや同年年の子ども同士で、お気に入りの本を読み聞かせることも、読書

の世界を広げていく上で有効な手段である。同年年の友達がどんな本を読んでいるのか、今どんな本に人気があるのかを知る上でも、絶好の機会である。

(三) ボランティアによる読み聞かせ

多くの学校では、読み聞かせグループや保護者、地域の方などをお願いして、業前活動や休み時間、国語の授業などで、読書指導の一環として、ボランティアを取り入れている。子どもの扱いをよく知っているお母さんやおばあちゃんなど、ボランティアによる読み聞かせは、絶大なる安心感と信頼感をもって子どもたちに好意的に受け入れられている。

四 おわりに

読み聞かせは、魅力ある本の世界をひらききっかけとなり、考えや想像力、コミュニケーションを広げる楽しい活動である。子どもたちには、これからの生活の中で、これらの読み聞かせの経験を思い出し、その時々の一コマに合せて本を探し求めたり、積極的に新しいジャンルの本に挑戦したりして、本を自分で選んで読める子になってほしい。

たかはし みほ 「群馬・国語教育を語る会」「声とこ  
とばの会」所属。学び合いと交流活動を通してこ  
の力をはぐくむ授業づくりを実践している。

# 教材から読書を広げよう

静岡県沼津市立大岡小学校

小谷田 照代

## 1 はじめに

今年、国民読書年であり、読書に関する話題がメディアをにぎわすと感じている。

さて、新学習指導要領の国語科では、言語活動の具体例として、読書に関して、一、二年生「物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと」三、四年生「紹介したい本を取り上げて説明すること」五、六年生「本を読んで推薦の文章を書くこと」が挙げられている。

今後は、今まで以上に、国語科の中で、読書の授業が取り入れられることになる。

ここでは、子どもがすすんで読書するようになるために、読書の時間を与えるだけでなく、より積極的な働きかけの方法を今までの実践から紹介していきたい。

## 2 教師のブックトーク

教材のテーマから子どもに興味関心に合わせて本を薦める方法の一つとして、ブックトークがある。ブックトークは、あるテーマに沿って本を紹介するが、教科書教材は、テーマがはっきりしているものが多いので、一度紹介したリストに、新しい本を加えていけばよりよいものができる。

小学校では、「友だち」「不思議な話（ファンタジー）」「家族」「昔話」「詩」「戦争」などがテーマとして考えられる。また、その他「環境」「生き方」「科学」や「実験」などに関するテーマでも行える。

一番最近のブックトークを紹介する。実際は、書名、一口紹介の後、本文から何行か抜粋して行う。

六年生「生き方」(伝記)

○『いのちのバトン』（日野原重明 ダイヤモンド社）

九十八才の現役医師の詩といわさきちひろさん絵による、いのちについてのコラボレーション。

○『夢のひとつぶ』（左近蘭子 世界文化社）

真珠の養殖に成功した御木本幸吉の一生を書いた絵本。

○『ローザ』（ニッキ・ジョヴァンニ 光村教育図書）

アメリカの歴史の中で最も有名な人物の一人「ローザ・パークス」のバスボイコット事件を描いたノンフィクション。

○『未来のきみが待つ場所へ』（宮本延春 講談社）

小中と劣悪ないじめを繰り返し返され、成績はオール1の落ちこぼれ。家庭内暴力と貧困に苦しみ、死ぬことも考えた作者の物語。

○『自分をそだてるのは自分―10代の君たちへ』（東井義雄 到知出版社）

東井義雄先生の小学生・中学生に送る講演会記録集。

教材に関連してブックトークを行うときは、子どものつぶやきを丹念に聞きながら行うと、より本への共感性が高まる。



今回は、六年生になってから読んだ伝記の内容や、共感した部分などを発表し合いながら読み進めた。

また、本を紹介するときには、一文でどんな内容なのかをはっきり表すことを教えるようにしている。これは、子ども自身が本を紹介するときに参考となる。

### 3 子ども同士で、話すだけの本紹介

ブックトークを何度か聞くと、子どもは、「本は人に紹介されると、より読みたくなる」ことがわかってくる。そこで、子ども同士のブックトークもできる。その導入として、「話すだけ」の本紹介が有効である。

「読書郵便」や「本の帯」などは、書いて



紹介するものだが、これは、書くことに苦手意識のある子どもも、とても意欲的に取り組み、読書への意欲が喚起される実践である。方法は、

- (1) 単元の最後に、教材に関連した本を見、童数分用意し、その中から選書する。
- (2) 話す内容を決める。内容は、①本のあらすじ ②一番心に残った箇所 ③感想に絞る。
- (3) 紹介する側と、紹介される側の二手に分かれ、紹介される側は、自分の気に入った本を選んで、そこで紹介してもらう。
- (4) 紹介された本は、そのまま借りて読み、一週間後には、自分の感想を伝える。

この方法は、自分の紹介で友だちが本を読んできた喜びと、同じ本を読んで感想を共有できた喜びとが味わえるものである。

### 4 友だちに読み聞かせしよう

友だちに紹介する方法で、低学年で実践しやすいのが、読み聞かせである。低学年には、「昔話」や「民話」教材があり、また学校図書館で本が揃えやすいので、比較的簡単にできる。また、本番までに、家庭で練習するために家族への読み聞かせも行うので、保護者から称揚をされると、練習にも一層の励みとなるようである。

### 5 友だちに書いて紹介しよう

多読が進み、書く力も付いてくると、「原稿を書いて紹介する」実践もできるようになる。方法は、

- (1) 単元終了後、同じ作家の本を教師が簡単に説明する。
- (2) 読みたい本を選ぶ。
- (3) 紹介カードを作成し、紹介する。

作家を意識する四年生以降に実践すると、読書の幅が大きく広がっていく。

### 6 終わりに

筆者は、子どものころ本来出会うはずの本に出会わず、やっと大人になって読むことができた。教師として、子どもと本の繋ぎ手になりながら、子どもが出会うはずの本に出会わないのは、大人側の責任だと痛感している。貪欲に吸収する子どもに、読書のきっかけさえ与えれば、自ら本に手を伸ばす子どもになるというのが、実践から得たものである。いつまでも「子どもと本の繋ぎ手」となるために、実践を重ねていきたい。

こやた てるよ 新採から読み聞かせを毎日続け、前任校で司書教諭としての実践を開始。二〇〇九年度より、沼津市立大岡小学校司書教諭。

# 必要な情報を選べる子どもを育てるために

東京都墨田区立第四吾嬬小学校

宮脇 康一

## 1 メディアは悪者か

わたしたちは多くの情報とその媒体（メディア）に囲まれて生活している。テレビ・新聞に代表されるマスメディアとそれらが伝える情報はもちろん、インターネットや携帯電話の利用は誰しもが思い浮かべるものであろう。しかし、それだけに限らず、わたしたちの身の回りには実に多くの情報がある。例えば、町を歩けばさまざまな看板が目に入り、道を走る車には会社のロゴがついている。電車に乗れば中吊り広告がある。

これらのメディアの発達が読書離れの一因であるという意見がある。確かに一理あるかもしれない。かといってメディアを悪者扱いにし、利用の制限をさせれば読書離れに歯止めがかかるかというところではないように思う。すでにこれらのメディアは生活の一部となっており、現実的でもない。また、これ

から生きる子どもたちにとっては、それらの利用は必然である。そこで、メディアの利用を前提として、本から必要な情報を取り出すために読書する子どもを育てるための方法を考えたい。

## 2 メディアの利用を教える

逆説的であるが、本を利用して情報を得る子どもを育てる有効な方法の一つは、前述のメディアの特性と利用方法を教えることである。

テレビは映像と音声とを同時に伝えられ、即時性がある。しかし、情報は流れてしまえば見直すことが難しく、必要な情報が常に流れているとは限らない。新聞も即時性がある上に多くの情報が詳しく書かれており、さらに読み返すことができる。しかし、過去の情報を得ることはできない。インターネット上には多くの、そして最新の情報があり、必要な

ときに見ることが出来る。また、だれでも情報の送り手になることができる。その反面、真偽の不明な情報も多く、慣れていないと必要な情報を見つけ出すことが難しい。

このようにそれぞれのメディアには、人間でいうところの得手不得手がある。それはメディアの特性といえるものである。これらのメディアでは探しにくい情報が、本から得られることがわかれば、本の価値に気付き、利用が高まると考えられる。

## 3 本もメディアの一つと教える

本には、多くの良い特性がある。専門家が書いていることが多いために、その情報の信頼性が高いこと。一定の情報が一続きにまとまっており、必要に応じて何度も読み返すことができること。また、同種の本を並べて読むことで情報に深みや広がりが見られること。図書館では十進分類法により順序よく並べられ、検索もしやすいことなど、この他にも多くの良い特性があることは、皆さんも御存じの通りである。

かといって本が万能だということはない。テレビのように動きや音を伝えることはできないし、新聞のような即時性もない。インターネットのようにだれもが発信できるわけではないし、本文のキーワード検索もでき

ない。

本に特性があることから、情報を伝える媒体という点からも、本も一つのメディアだといえる。他のメディアと同列に考える必要がある。本も他のメディアと同様であると教えることが、適切な利用につながるのである。

#### 4 複数のメディアの利用を教える

わたしたちが本に情報を求めるときには、一冊だけではなく、複数冊を用いることが多い。それは、一冊では求める情報が十分得られなかったり、著者や出版時期の違いによって情報が異なる可能性があったりするからである。また、ある本にはなかった情報が別の本でわかることがあるからである。

他のメディアを用いて情報を求める場合も同様である。テレビで見た情報を翌日の新聞でくわしく知ろうとすることは一般的である。人から聞いた話をインターネットで調べて確かめるという行動も珍しくはない。それぞれで得られる情報が異なったり、精度に違いがあるからである。

本と他のメディアを併用する場合もまた同じことが言える。専門家の書いた百科事典と複数の人が書き加えたインターネット上のウィキペディアとは、得られる情報が異なることが普通である。インターネットでは情

報を得られなかったが、本では情報を得られることもある。その逆も、もちろんあるだろう。

このような活動を繰り返すことによって、安易にインターネットのみに頼るのではなく、求める情報を得るためには本も含めたメディアをどの程度用いることが必要なのか、体験的な理解が深まるであろう。

また、複数のメディアから情報を得ると、どの情報が求めているものなのか、どちらの情報がより正確なのかなどを判断する必要が生じ、結果的に情報の取捨選択能力の育成につながると思われる。その上、必要な情報を組み合わせて利用する能力の育成にもつながると考えられる。

このように、他メディアの利用は、結果的に必要な情報を本からも取り出すことが重要であると教えることにつながるのである。

#### 5 本の使い方を教える意味

ここまで、見出しに「教える」という表現を用いてきた。読書に親しむ態度を養う点で違和感を抱く向きもあるかもしれない。確かに、必要な情報を本から取り出すことが自然にできるようになることが理想的だが、現在本を読む習慣をもたない子どもにはあまり期待できないであろう。自然に身につくことを

待っているのは、結局、本の良さを知らないままの子どもを増やすだけではないかと危惧する。本から情報を取り出せるようになるためには、その方法を具体的に教えることが重要である。それも、手順を教えるだけではなく、実際に本を扱うことによって体験的な理解をさせなければならぬと考えている。

#### 6 本を含めたメディアとの

#### つきあい方を考えさせる

冒頭に述べたように、本以外のメディアも利用することで、本の良さを認識できたり魅力が引き立ったりすると思う。要は、それぞれのメディアの特性を理解した上で、情報のとらえ方と取り入れ方、距離の取り方と生かし方がわかることが重要である。本も含めて、メディアとのつきあい方を考え、自発的に行動できるようにすることが、必要な情報を本からも取り出す能力を身につけさせることになるかと主張したい。

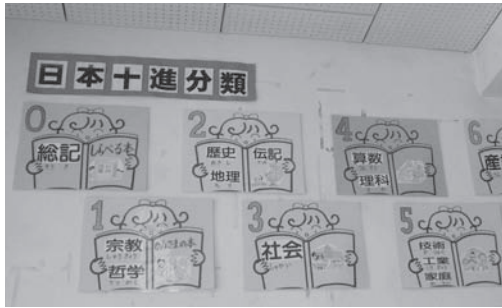
みやわき こういち 東京都墨田区立第四吾嬬小学校  
主任教諭 文脈によって伝わることに興味をもち、実践を考えています。

# 読書ができる子どもをばぐくむ学校図書館

東京学芸大学  
渡辺 暢恵

学校図書館はあらゆる教科と関連があり、読書の力は、国語だけではなくすべての教科でつけていくものである。そのためには、司書教諭の計画と全教諭の実践が必要である。

## 1. NDCを教えるオリエンテーション



学校図書館は、大きな事典だと考えるとよい。そのためには、探すことができるシステムが必要である。国語辞典が五十音順に並んでいるように、学校図書館には、日本十進分類法(NDC)とい

う並べ方が多く用いられている。

教科別などの配架は、担当者が替わると分ける観点が曖昧になってしまうので、異動の多い公立の学校には不向きである。NDC順に並べてあることは、児童・生徒はもとより職員全員にわかってもらわないと、活用できず、並べ方を維持できない。そのために、年度初めに行われるのが、学校図書館の使い方のオリエンテーションである。NDCの説明



だけではなく、何冊、どのくらいの期間借りられるのかをここで確認する。そして、本を借りる練習をさせるるとよい。学校司書(教

員ではなく、学校図書館専属の職員)の配置されている学校、司書教諭が専任または司書教諭の時間が確保されている学校では担任とチームティーチングで実施することをすすめたい。児童・生徒が、学校司書や司書教諭に親しみ、今後、質問することができるようになる。

オリエンテーションを実施し、本の並べ方をしっかりと覚えると、どの子も本を大切にできるようになり、返却もきちんとできるようになる。

## 2. ブックトーク

オリエンテーションや読書指導の際は、学校司書や司書教諭に、ブックトークをしてもらうとよい。担任、各教科の教諭にも実施していただきたい。ブックトークとは、一つのテーマで何冊かの本をすすめる方法だが、先生には、多くの本を選んで読む時間はないので、一、二冊でもよい。大好きな先生にすすめられた本は、子どもたちが関心をもつ。紹介したときには借りなくても、心に留めて、いつか手にとってくれるものである。

一番の読書環境は「人」である。まず、教諭も含め、周りの大人が「こんな本がおもしろい」とすすめることが大事である。

次の写真は、千葉県柏市の学校図書館指導



員、国貞さんと子どもが、六年生にブックトークをしているところである。高学年になると本を読まなくなるというの

間違いで、このように心をこめて語りかけると、どの子も読んでみたいと思って、本を手取る。ブックトークに使用した本は、必ず数人が読みたくるので、冊数の多いシリーズの中から一冊を入れておくと、すすめた以外の本も借りられるようになる。

### 3. 授業中の読書指導の禁句

授業中の読書指導の禁句は、「好きな本を読みましょう」である。意外に思われるかもしれないが、授業中であれば何かめあてをもたせるのは当然のことである。例えば、体育の授業で、校庭に出て「好きな運動をしよう」とは言わないように、学校図書館で授業をする際は、その教科の目標に照らして、発達段階、単元に合わせて、めあてのある読書

をさせるべきである。

高学年では「教科書で学習した物語の作家の本を読みましょう」低学年では「最後までしっかりと読みましょう」など。詩の学習をしているときには、学校図書館の詩の本を読んで、好きな詩をノートに視写すると、学習に広がりがある。

写真のブックトラックには、「楽しい本を一冊、しっかりと読みましょう」（小学校二年生の三学期）というめあてに合わせて、おすすめの本が並べてある。「学校図書館の中の好きな本を読みましょう」とすると、選べなくてウロウロしてしまう子も、このようにすると落ち着いて読むことができ、効果的である。



### 4. 読み聞かせだけでは育たない

読み聞かせは、児童・生徒を物語の世界に引き込む効果的な方法である。読み手と聞き手が一体となった時間を共有し、心を豊かにする作用があり、これを味わわないと読書への興味をもつことは困難である。

しかし、読み聞かせだけでは、自分から読めるようにはならない。小学校の二年生までは、読み聞かせした本をまた、自分で読みたいと思うので、同じ本、またはシリーズを用意しておいて、一人ずつに持たせられるようにし、自分で読めるように時間をとる。

小学校三年生以上は、読み聞かせをブックトークの一つとして導入にして、関連するテーマの本を人数分用意し、読む時間を確保する。朝読書の時間をこのように活用している学校もある。

いずれにしても、指導に使う目的の本をあらかじめ購入しておく必要がある。学校図書館は、公共図書館とは違い、学年の目標に合わせた選書の目が求められる。一冊ずつ違う本を購入するだけではなく、必要に合わせて複本にすること（複数購入すること）も考える。

そのために準備するのが、学校図書館の本を利用する年間計画である。どの時期に何年生がどんな読書を指導課程に位置づけるか、司書教諭または図書担当教諭が中心となって案をつくっていただきたい。

わたなべ のぶえ 東京学芸大学非常勤講師。著書「子どもの読書力を育てる学校図書館活用法」(黎明書房)『学校図書館入門』(ミネルヴァ書房)ほか三冊。

最近

# 出たおすすめの本

## ◆高橋美保先生が選んだ本



みみかきめいじん  
かがくいひろし  
講談社 2009年

絵がほのぼのとしていて優しく、メインキャラクターがユニークです。耳かき名人のひょうたん先生が、弟子

のひょうすけとともに、さまざまな相手に耳かきという「癒し」をしてあげ、感謝される話です。温かい人間関係づくりの大切さを伝えていきます。文章には、擬声語・擬態語がちりばめられ、文字の書き表し方が工夫・強調されています。本文で繰り返し返されることばを、子どもといっしょに声に出し、その響きを楽しむたくなる本です。



言葉はライブだ!  
内多勝康  
岩崎書店 2009年

音声言語のプロである筆者が、ことばとコミュニケーションについて、親近感のもてる文体で

綴っています。多くの失敗や経験を素直に受け止め、原因を確認し、アナウンサーとして成長していく姿に共感します。また、ニュースづくりの実際や情報など、メディア教育につながる重要な視点がわかりやすく書かれています。筆者の仕事に対するひたむきな姿勢も、子どもに参考にさせたいものです。

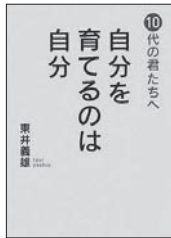
## ◆小谷田照代先生が選んだ本



もしも原子がみえたら  
もたな聖宣  
板倉書店 2008年

「いたずらはかせのかがくの本」の新版で、難しい分子の世界を子どもにわかりやすく説明した科学絵本です。

「この宇宙のすべてのものは原子でできている」って本当？ じゃあ、この紙も？ 石も？ 水も？ …… それに、わたしの体も？ と問いかけながら、話が進みます。学年を問わずに楽しめる構成になっています。巻末には分子グッズもあり、見るだけで分子の世界のぞいた気分になれるでしょう。



10代の君たちへ  
自分を育てるのは自分  
東井義雄  
東井義雄出版 2008年

著名な教育者、東井先生が、一九八〇、八一年に行った講演会をまとめた本です。絶版となっていたものが再

版されました。子ども向けに語られていますので、文章はとても平易ですが、どう自分の人生を生きるかについて静かに考える時間を与えてくれます。卒業を控えた六年生や中学三年生へ紹介すると、心に響く本となると思います。

特集の原稿をご執筆いただいた先生方に、最近出たおすすめの本を紹介していただきました。

## ◆宮脇康一先生が選んだ本



ぼくのかえりみち  
ひがしちから  
BL出版 2008年

表紙を見て、白い線や歩道の縁石の上を歩く何人もの子どもの顔が目には浮かびました。中を開いて一番共感したのは、横断歩道を断崖絶壁に見立て、勇敢に越えていく姿です。いつの間にか応援する気持ちになっていました。同じ断崖絶壁でも、ゴール周辺の絶望感をみごとに表現した絵にも脱帽です。ちなみに、冒頭で浮かんだ顔の中には、自分の顔も見えました。今もときどきあんなふうには……というのではないしよです。



霧の森となぞの声  
岡田淳  
理論社 2009年

「こそあどの森」シリーズの最新刊です。岡田さんの本はどれも好きですが、そのきっかけの一つでもありません。何より好きなところは、シリーズ中に張り巡らされた「リンク」です。どれを読んでも、以前の巻を読み返したくなります。読み返すとより深く理解できます。何度読んでもおもしろいからこそできるのです。子どもたちに、伏線や文脈のおもしろさが自然に伝わる名著でもあります。

## ◆渡辺暢恵先生が選んだ本



ルリユールおじさん  
いせひでこ  
理論社 2006年

ルリユールとは、フランスの本造りの職人のことです。少女ソフィーは、大好きな図鑑がバラバラになってしまい、ルリユールおじさんを探し出します。図鑑に出てくるアカシアの木はソフィーのお気に入り。そのおしゃべりを聞いて、年老いた職人はすてきなはからいをしてくれます。専門の道具を使って、手仕事でひとつずつの工程を丁寧にこなす様子が、きれいな絵で描かれていて魅力的です。本の大切さをあらためて思い起こさせる一冊です。



シートン伝記  
藤原英司・文  
熊谷英集・絵  
2008年

シートンの物語は、『オオカミ王ロボ』『灰色グマ、ワーブの一生』など、世代を超えて読み継がれています。シートンについては、物語ほど知られていません。この本は自然を愛した彼の生涯を、物語の訳者でもある著者が、実際に住んでいた家を訪ねて書いています。シートンは動物だけではなく、アメリカの先住民の生き方も大切に尊敬して、実際に伝えていきます。小学校高学年に、物語とあわせて紹介してください。

### 想像したことを詩に書く 〜菜の花に心を寄せて〜

兵庫県高砂市立みのり会館 檜皮 道弘

#### 一 はじめに

発見したことや、心に強く感じたことを詩に書く学習は、子どもの感性を磨き、言葉の感覚を高めるうえで大切な学習である。

詩の指導に関しては、新学習指導要領中学年「書くこと」の言語活動例として、「身近なこと、想像したことなどを基に、詩をついたり、物語を書いたりすること」とある。

子どもの想像力や観察力を養い、書く力をつけるために、詩をつくる学習をより積極的

に取り入れてみたいと考える。

#### 二 学習のねらい

この学習のねらいは、対象を観察して、発見や感動、想像したことを基に、詩に表現する方法を理解させ、



詩をつくることの楽しさを実感させることにある。三年生を対象とした一時間の学習で、「菜の花」を題材として取り上げた。菜の花の詩を書かせたのは、子どもの身近にある花で、春の訪れを強く感じさせる明るい花であること、花に心を寄せながら、発見や思いを表現しやすいことなどである。この学習には、次のような価値と意義がある。

- ① 季節や自然に対して関心をもち、自然へ愛着を深めることができる。
- ② 詩のタネを見つけやすくし、詩をつくることへの抵抗感を和らげることができる。
- ③ 感受性を鋭くし、観察力や想像力、言語感覚を育てることができる。

#### 三 学習活動と指導の手立て

##### 1 「出し合う」活動

「春の宅急便」と書かれた箱（中に菜の花が入っている）を準備した。箱の中身を予測し合った後で、菜の花を取り出し、一人に一

本ずつ手渡した。花や蕾、葉、茎などをよく観察し、発見したことや気付いたことなどを自由に出し合った。

子どもの発表を「見る」「におう」「さわる」「想像する」などの観点に分けて板書した。

**見る**：葉っぱがしわしわ アイドルみたい  
花が赤ちゃんみたい 太いくき

**におう**：いいにおい ふじの花のにおい  
なつかしいにおい お花畑のにおい

**さわる**：ききがつる つる 葉がかさかさ  
葉っぱがふわふわ くきがでこぼこ

**想像する**：もう春だな 気持ちいいなあ  
花がわらっている なぐさめているよう

##### 2 「詩のつくり方を知る」活動

以前に指導した春見つけの詩や、子どもらしい発想の詩、様子や気持ちがよく表現されている詩などをいくつか紹介して、詩作への意欲を高めた。また、比喩（〜みたい、〜のようだ）、擬人化（菜の花を人に見立てて）、





#### 4 「できた詩を読み合う」活動

友だちの作品のよいところや、おもしろいところなど、作品の発表を聞いて自由に感想を語り合った。その子らしい発想や表現をほめ、成就感や満足感を持たせるようにした。

- ① 見つけたことや想像したことを書く。
- ② 花に話しかけるように書く。
- ③ 書きたいことから順に書く。
- ④ 短いことばで言いきるように書く。

#### 3 「詩をつくる」活動

学習活動1・2を参考にしながら、ワークシートに、菜の花を見て発見したことや想像したこと、感じたことなどを詩に書いた。書くことが見つからない子や、書き方がわからない子には、個別にアドバイスをした。

### 四 子どもの作品

なの花わらってる

ははははは、ははははは  
太陽の光いっぱいあびてわらってる  
大きな声でわらってる  
ははははは、ははははは  
楽しそうだな  
ほくもなままに入れてよ  
ねえねえ、なの花、遊ぼうよ

春からのおくり物

黄色い頭の なの花さん  
はっぱがでこぼこ なの花さん  
太いくきの なの花さん  
「きれいですか」と聞いたなら  
「きれいですよ」と答えたよ  
すぐきれいな なの花さん  
やさしい顔の なの花さん  
いつもえがおの なの花さん  
春からのおくり物  
なの花さん

かわいいなの花

なの花はアイドルみたい  
頭に黄色いかんむりつけてるね  
もしいらなくなったら  
わたしにちょうだいね  
なの花はかわいいおよめさん  
元気な赤ちゃんうむんだよ

元気な赤ちゃんうまれたら  
わたしにだかせてちょうだいね

なの花はいつもにこにこわらってる  
お母さんみたいなえがおだね  
なの花におい  
なつかしいにおいだな  
お花畑でいちばんかわいい花だね

子どもたちは、手にした菜の花を見て、感じたことや思ったことをそのままに、自由に、楽しそうに詩に書いた。花の蕾を赤ちゃんに見立てる子や、花びらを人が笑っているように想像する子など、菜の花に心を寄せて、イメージを膨らませながら詩をつくった。できた詩には、子どもの豊かな感性や、直感力の鋭さを感じさせる作品が数多く見られた。

### 五 おわりに

自然や生活、身の回りの出来事を書く学習は、子どもものの見方や考え方、感じ方を育て、書く力を高めてくれる。とりわけ詩をつくる学習は、子どもの想像力を豊かにし、ことばの力を高めてくれると考える。

ひわ みちひろ 元高砂市立米田西小学校長。授業づくりや教材研究の方法などについて今も研修を深め、他校での研究の支援と助言を行っている。

# 実践流 実交

小学国語  
— 高学年 —

## 自分の思いを伝え合う集団づくり ～説明文から「表現する」技能を学ぶ活動～

愛知県岩倉市立岩倉南小学校

石坂 尚子

### 一 はじめに

授業の課題に対しての発言が一部の児童に集中し、活発に行われなことがある。理由を尋ねると、「発言したいけれどもうまく説明ができない」「自分なりの考えが浮かばない」と言う。これらは、言語力が十分に身に付いていないことと、自分の論理がうまく組み立てられないことが原因としてあげられる。説明文の学習を通して、五年生と六年生の二年連続で行ったうち、六年生の取り組みについて述べたい。

### 二 学習の全体計画

(下段参照)

### 三 文章の組み立て方を学んで

言語力を高める

六学年で取り上げた二つの説明文は、テーマや論の進め方が類似している。二つの説明文の構造をしっかりと分析し、それを比較しな

### 【学習計画】

体験活動（総合的な学習）

「野外学習」「米作り」「ストップ温暖化教室」

- ・体験を通して、自然を五感で感じ、自然の良さを感じる心を育てる。
- ・身近な自然環境の中にも生き物の循環があり、自然の大切さを実感させる。
- ・地球規模の環境問題について調べ、自分たちにできる解決方法を考え実践する態度を育てる。

	言語力の育成	表現力の育成
5年生	<p>「森林のおくりもの」</p> <p>①説明文の構造を学ぶ。 【問い—本論—結論】</p> <p>②論理の展開の進め方を学ぶ。 【問い—答え—具体的な説明】</p> <p>③筆者の主張を読みとる。</p>	<p>授業実践1</p> <p>①教材文から学習問題をつくり他の資料を用いてまとめる。 【学習問題—答え—具体的な説明】</p> <p>②筆者の主張を他の資料を用いてくわしく説明する。 【キーワード—資料—筆者の主張の説明】</p>
6年生	<p>「イースター島にはなぜ森林がないのか」</p> <p>①説明文の構造を理解する。</p> <p>②筆者の主張を読みとる。</p> <p>③問題提起から主張までの展開を分析する。 「マンモス絶滅のなぞ」</p> <p>④説明文の構造を理解する。</p> <p>⑤筆者の主張を読みとる。</p> <p>⑥2つの教材文から説得力のある説明文のポイントをまとめる。</p>	<p>授業実践2</p> <p>①「イースター島にはなぜ森林がないのか」の筆者の主張に対して、自分の考えの立場を決めて発表する。</p> <p>②「イースター島にはなぜ森林がないのか」 「マンモス絶滅のなぞ」 2つの教材文を比べて、どちらに説得力があるのか自分の考えを具体的に述べる。</p> <p>③他の資料を用いて論理を展開し、説得力のある説明文を書く。</p>

がら、筆者が文章の組み立てで工夫している点に注目して、読む学習を計画した。また、比べて読むことにより、「わかりやすく表現するポイント」を見つけていけるようにした。

① 説明文の構造を理解する

五年生で学習した説明文の基本構造【序論—本論—結論】と、【問い】の文を確認し、教材の文章構造をつかむ活動を行った。

② 筆者の主張を読みとる

説明文の核である「主張」をとらえることで、全体構造が分析しやすくなると考えた。

③ 問題提起から主張までの展開を分析する

全体の構造をつかんだ後、特に筆者の主張が述べられている結論部分を詳しく分析した。

④ 説得力のある説明文のポイントをまとめる

- 六年一組 説得力のある説明文のポイント10
- 1 序論を入れる（テーマについての説明を入れる）
  - 2 問いの文を入れる
  - 3 内容をわかりやすくする
  - 4 確かな題材をもとにする
  - 5 伝えたいことをわかりやすく短くまとめる
  - 6 難しいものは例えを入れる
  - 7 興味をもたせるようにする
  - 8 結論をはっきりさせる
  - 9 自分の考えを入れる
  - 10 心にひびくように工夫する

二つの教材を読解した後、どちらに説得力があるのかを評価し合い、その根拠から「六年一組 説得力のある説明文のポイント10」をクラス全体で導き出した。

四 自分の考えや思いを言葉や文章で論理的に表現する力を高める

「説得力のある説明文を書くポイント10」をもとにして、自分の考えを説明文にまとめる活動を行った。説得力があるかどうか互いに評価しやすいうように、テーマをクラスでしぼった方がよいという意見が子どもたちから出され、今までの自然とのふれあい体験と国語の学習をもとに「なぜ温暖化が始まったのか」と「地球はいつまでもつのか」に決定した。

① 説明文のメモづくり

【問い】をつくり、【自分の主張】に結びつくようにワークシートを使って、作文計画を立てた。

② 資料を使う

ポイント4「確かな題材をもとにする」を、実践するために、図書室の資料を検証し、必要な部分を取り入れて自分の主張を確実に裏づけられるようにした。

③ 作文する

教材文の表現も参考にしながら、ワーク

シートであらかじめ組み立てておいた自分の論理をもとにして、作文を書き進めた。

④ 発表し評価し合う

書いた作文を同じテーマの子ども同士、グループになって読み合い、互いに評価し合った。同じテーマ同士で評価し合ったことにより、「こんな主張の仕方があるのか」「こんな具体例もあるのか」と気づく子がいたり、「友達にアドバイスされて次に生かしたい」と次への意欲をもてた子もいたりした。

五 おわりに

説明文の読解の学習後に、それを活用した表現活動の場を設けることは、教材文で学んだことをすぐに自分の表現に生かすことができ、言語力と表現力の双方が高まる。さらに、表現力を磨くには、心の内から表現したくなる感動体験と組み合わせる学習計画を立てることが、一人一人の伝え合う力を高めていくことにつながっていくと考える。

これからも、子どもたちの【言語力】や【表現力】を育成し、自分の思いを言葉で表現できる集団づくりをしていきたい。

いしさが なおこ クラス全員が自分の思いを表現でき、ともに学び合うクラスづくりを目指して、試行錯誤の毎日。

### 「言葉の力」 〜学び方を学ぶ〜

奈良市立都跡小学校 植島 佳子

#### 一 はじめに

この授業でめざす子どもの姿はどんなものか。子どもにどんな力をつけたいのか。そのために、どの教材を使って、どのような活動を取り入れながら授業を進めようか。試行錯誤しながら授業を組み立てる。

そんな国語教室の中で、特に私が心がけていることは、次の三つである。

- ・言葉に敏感な子どもを育てる
- ・子どもがお客にならない、居場所がある
- ・同じ領域（「読む」領域、例えば文学的文章の読解等）の単元では、同じ学び方ではなく、さまざまな学び方を習得させる

#### 二 言葉の学びの場としての国語教室

まず、言葉に敏感な子どもを育てるためには、国語教室を「言葉の学びの場」ととらえ

て学習することである。私は、「言葉の学びの場」とは、次のようなことかと考えている。

##### ① 教材は、言葉との出会いの場

教科書教材は、どの子にも共通にある言葉との出会いの場、多くの言葉に出会い、その働きや意味を知る。並行して、読書活動をすすめることで、より語彙が豊かになる。

##### ② 言葉の技能を身につける

文が書ける、お話が読める、話ができるようになった…という実感をもたせる。できるようになったという積み重ねが、国語好きを育て、教室に自分の居場所を見つけるようになる。

##### ③ 表現について考える

「大事にしたい言葉」「使いたい言葉」「覚えておきたい言葉」など、言葉に主

体的に関わり、表現を学ぶ。

##### ④ 自分の言葉で表現する

- ・「たとえば」や「つまり」が使える
- ・「なぜ・どうして」から「それで」へかえる
- ・「言いかえると」「まとめると」「要約すると」

#### 三 学び方を学ぶ

##### 文章を「読む」領域から

文学教材はどの学年でも扱われていて、子どもたちも大好きである。お話として聞くのは好きだが、何時間もかけて、「心情は、情景は」と、くどくなると、かえって国語嫌いをつくってしまうことになる。ましていつも同じような授業となおさらである。

最終的には、読みは個人の自由である。同じ作品でも、年齢や環境によって読みはかわってくる。しかし、子どもたちには、発達

段階に応じて国語的な読み方を多様に学ばせ、最終的には、読みの方法を自分で選択し、自分なりの読みができる力をつけることが大切である。そのために、教材ごとに読みの方法を工夫し、自己の学習成果が評価できるような授業をめざしたい。

(読みの方法例)

① ワークシートの活用

- ・指導者が考えさせたいところに吹き出しをつくる。(キーワードは押さえる)
- ・子どもが書きたいところに自由に吹き出しをつけて書く。(想像をふくらませて、挿絵を読む)

② 書き込み法

- ・全文を与え、気持ちや性格がわかる文や文章を見つけて書き込みをする。または、書き出しをする。

- ・音読の工夫に視点をあてて、どこを、どのように読めばいいのかを書き込む。「どのように」は、寂しさが出るように、ささやくように小さな声で、というように)

③ 活動型の読み

音読(朗読) 発表会・劇化・影絵・紙芝居等、最終的に発表会等を設定して活動を進めながら読みを深めていく。読み

取ったことが効果的に表現できるよう、読解を深めるのが目的である。

④ 比べて読む

同じ作者の作品を比べる。

(例)新美南吉作「ごんぎつね」と「手ぶくろを買いに」

宮沢賢治の点数の作品を通して生き方に迫る。

登場人物・構成・情景・主題等に視点をあてての比べ読み

⑤ 見通しをもった授業

授業の計画を子どもに示し、見通しを持って授業にあたる。今この時間の授業は、次にどう続くのか、最終は何をめざしているのかを知って学習を進める。そして、自己評価しながら、次の課題を確認して授業をつなげていく。こうした見通しは、学習力を高める上で大切である。

四 おわりに

国語の力を高めるために、基礎・基本を大切に学習を基盤として、学び方を学ぶ授業を実践する。と同時に、保護者にも学習のねらいを知らせることは、効果的な家庭学習にもつながるものである。次にその一部を紹介する。

(お家の方へ)

教材を学習するのではなく、教材で学習するのです。すなわち、書いてあることの内容理解だけで終わってはいけません。教材を通して、いろいろな学び方(読み方)を学び、最終的には自分の力で読めるようになることが大切なのです。ですからこれからの一年、いろいろな読み方を知ってもらおうと思っています。今回は、「音読の工夫を中心に……」の学習方法です。音読は、読解を深めるためのものです。音読を工夫しながら、様子を想像したり、登場人物の気持ちを考えたりして豊かな読みにつなげていきます。

現在の国語では、「読書」と「読解」は並行して重視されています。また、内容把握だけではなく、すぐれた表現を自分の表現に活かすような読みも同じように大切だとされています。

四年生ですが、そういうことを意識しながら少しずつ進めていきたいと思えます。学習の見通しを持って学習を進めることで、主体的に学ぶ力が育ってくれたらいいなと思っています。

うえしま けいこ 奈良市立都跡小学校教頭。元奈良県国語教育研究会研究員。

### 取り組みやすい課題から始まる読むことの学習 〜学級の全員が学習課題を生み出す〜

東京都世田谷区立砧南小学校 西田 太郎

#### 一 はじめに

「子どもたちの初発の感想や毎時の学習感想を、学習計画に生かしたい。」

自ら学ぶ意欲的な子どもを育てたいと考える際には、選択肢の一つとして必ず挙げられることだろう。しかし、全ての学級ですぐに実現できるほど簡単なことではない。

文学的文章の読解において、子どもの考えを生かした授業づくりを行うために、子どもの立場に立った学習課題のあり方を考えた。学習課題を取り組みやすくし、子ども一人一人が自分の考えを確実にもった状態で授業を始められないだろうか。

(子どもが文章から読み取ったことは、想像や感想も含めて『考え』と表記している)

#### 二 取り組みやすい学習課題

学習課題は、子どもに何を考えさせ、どんな力を付けるかが反映される。文学的文章の

読解であれば、作品を味わわせると同時に、次の学習に生きる読みの力を付けるための課題を設定する。設定された学習課題は、導入の工夫によって、子どもにとって取り組みやすい課題へと進化する。

ところが、どんなに導入を工夫しても取り組みたい課題が、教室の子ども全員にとって取り組みやすい課題とは限らない。

学習課題は、どの子どもも取り組むことができ、教室の中で支援が必要な子どもが最もその解決に近い課題が理想的といえないだろうか。支援を必要とする子どもの考えこそ、生かしていくべきである。

初発の感想で一文「おもしろかった」と書いてある。文章全体、もしくは一部が「おもしろかった」と感じさせたのだ。直観的で説明不足だからこそ課題として成立する。この難問の解決に最も近いのは、言葉にできなかった理屈をもっている本人である。

自分の考えをまとめる際、従来の指導では、

叙述を明確にして読み取っていく。実は、その手順が高いステップである。取り組みやすさを重視する場合には、あえて要求しない。具体的には、この段階でサイドラインや書き込みといった個人で読み進めるための活動を行わない。これらの活動は、読み取りが苦手な子どもの負担となり、思考を妨げていると考えるからである。

子どもたちの思いつきやイメージを大切に  
して授業を始めたい。文章を読んで、  
「どう思った？」

これが学習課題になる。付け加えるのは、登場人物や場面程度の思考範囲の縛りだけだ。

質的な違いは歴然とあるものの、全員の子どもが自分の考えをもつことができる。

#### 三 考えの筋道をたどる

全員が自分の考えをもって授業は進むが、このままでは学習にならない。子どもたちが文章を読んで考えたことには、必ず文章中の

仕掛けが作用している。その仕掛けを探していく。

「なぜ、そのように考えたのか」という発問でペア活動を始める。ペアの活動であることが重要である。全体やグループでは個のつぶやきが失われてしまうからだ。全員が考えをもっている状況を十分に生かすためには、ペア学習が最も効果的であると考える。

- ① 相手が注目したことは何か？
  - ② 想像のきっかけになった叙述は何か？
  - ③ 自分の考え
- の順に友達の想像をたどっていく。①は、友達の想像に対して、だれ（登場人物など）の、何（行動、相互関係など）についての想像なのかを整理する段階。②は叙述を根拠に描写や展開の仕掛けを探っていく段階。そして、③は、友達の想像や作者の書き方の工夫に対して自分の考えを述べていく。
- ペア学習の成果を全体でさらに深める。

#### 四 実践例

初発の感想を使っていく場合は、毎時の目標に合わせて、採り上げる子どもの考えを選んでおく。足りない場合は、授業の始めに指定した内容についての考えを問う。

五年生「注文の多い料理店」での指導を例に挙げる。

まず、初発の感想を書かせる。内容・書き方・作者について自分の感想を書くという観点は指導している。そして、学習計画の段階で、毎時何を読んでいくかだけは、決めておく。二人の紳士の気持ち・山猫軒・白いくまのような犬といったように、場面毎でも登場人物に関わることもよい。

第三時。本時の目標は、山猫軒や山の中の様子、白くまのような犬を表す叙述を根拠に、空間的・時間的な非現実の場面設定を読み取ることとした。

この時間は初発の感想を使って授業を進めた。採り上げた子どもの考えは、  
C1「あの店は、げんかくのような感じ。」  
C2「鳥がいなかったのは、その店があったからだ。」  
C3「犬が生き返った。」

いずれも、国語が苦手だと思っている子どもだ。C1・C2を順に提示し、その都度、ペア学習を行う。C1であれば、

##### ① 山猫軒

② けむりのようにきえ  
となり、自分の考えをノートに付け加える。その後、全体で交流する。子どもたちの思考は、「山猫軒は、まぼろし」「山の中も、現実ではなさそうだ」と流れていった。ペア学習で叙述をおさえているため、本文の確認も容

易だ。最後に、いつ現実に戻ったのかを文章で確定するためにC3を提示し、再度ペア学習と全体の共有化を行った。

子どもたちは、犬の生死を議論するのではなく、場面の展開を通じたファンタジーのおもしろさを味わうことができた。同時に、文学的文章における場面設定の工夫について理解した。

#### 五 おわりに

今回の報告では、取り組みやすさに重点を置いた学習課題の設定について述べた。子どもたちは、直感やイメージでも認められることに安心感をもつことができた。さらに、自分の考えをもった状態で学習できることが意欲を生んでいた。読むことの学習において、子どものイメージからさまざまな論理に結びつけ、力に変えていくことが大事ではないだろうか。

今日、特別支援教育の視点を授業づくりに取り入れることが注目されつつある。このような全員参加の形も必要だと考える。ただし、選択肢の一つであり、意図的な年間指導計画の一部である。

にしだ たろう 世田谷区立砧南小学校教諭、平成19  
〜21年度世田谷区教育研究員。

## 書写の活用力を育てるため 私の授業改善

福岡県広川町立中広川小学校 塚本 保代

### 一 はじめに

「先生、どうして習字の勉強があるのですか」—ある子どもから発せられた素直な疑問である。日常生活の中で文字を書く手段として筆を使った経験のある子は皆無に等しい。その分、子どもたちに毛筆の学習の必要性が実感としてないのは当然のことである。そこで、新年度出会った子どもたちと最初に行う書写の授業では、その率直な疑問に答えることから始めるようにしている。

### 二 毛筆の学習は何のため

では、毛筆を学習する必要性（意義）はどこにあるのだろうか。—日本の伝統文化だから……何かすっきりしない。子どもの心にも響いている実感がない。そんなとき、広島大学の松本仁志先生が書かれた文章を読む機会があった（『ことばの学び』10号）。私も含め子ども疑問に対する答えがそこにはあった。

まさしく「目から鱗が落ちる」思いだった。

### 三 授業を変えなければ……

それまでの私の授業は、「手本の説明・示範・練習・添削・清書」というスタイルから抜け出せないでいた。松本先生は、次のような観点から書写の学びの提案を行ってあった。

- ① 一人一人の文字を育てる
- ② 思考活動を重視した学び
- ③ 日常使用する硬筆を中心とした学び

このことを知り、毛筆書写と硬筆書写の関係と、その指導のあり方が自分の中で明確になった。硬筆書写の基礎・基本を身に付けさせるための方策の一つとして毛筆がその役割を担うということである。そして、学んだことが日常に生かせなければ、それこそ学習する意義は薄いものになってしまう。そのためには、授業における思考活動は不可欠であることを改めて知った。このことが授業改善を行

う大きなきっかけとなった。

さらに、今回の学習指導要領の改訂においても、習得した基礎的内容を日常生活や学習活動に生かすことのできる力、つまり「活用能力」の重要性を明記してある。実践の方向性をさらに強く示唆してもらった思いである。その中の一つの実践を報告したい。

#### ● 六年生単元

#### 「伝えたい気持ちを文字に込めて」の実践

#### ○ 授業の意図

- ① 手本を目標と捉えるのではなく、現時点での「自分の書」を出発点とし、そこからよりよい文字へ自ら高めていくという意識をもたせる。
- ② 活用力を育てるための二点に留意する。

・どのような組み立てになっているか、どのような筆使いをしたらよいのかなど、既習内容を想起したり、生かしたりするような



思考活動を仕組む。そのために、既習内容の掲示物を準備して常にふり返られるようにしたり、グループ交流を取り入れたりするなどの手立てを講じる。

・単元の導入で漢字の組み立てを硬筆で考えさせる。また、単元の終末では、硬筆で漢字を清書した「説明書」を書く活動を仕組む。このことにより、毛筆の学習を硬筆に生かそうとしたり書写の学習を日常に生かそうとしたりする意識を育てる。

○目標

今まで学習した内容（組み立て方・筆順・字形・筆使い・文字の大きさ）を生かして、うちの人へ感謝の気持ちを込めた文字のプレゼントをしよう。

○学習計画

- ① 字の意味や成り立ちを辞典で調べ、うちの人に贈りたい漢字一字を決める。（一時間）
- ② 「試しの書」を書きグループで交流した後、自分の課題を設定する。（一時間）
- ③ 漢字の組み立てや画の長さ・向きを硬筆文字でとらえ、練習する。（一時間）
- ④ 毛筆で練習し、色紙に清書をする。（二時間）
- ⑤ 文字の意味やその字に込めた思いなどを書いた「説明書」を硬筆で書く。（一時間）

○学習活動の実際

どんな字を贈ろうかとあれこれ迷う子どもたちの姿は実にほほえましかった。自分の名前の一字を選ぶ子、辞書で今の自分の気持ちに合致する字を探す子など、どの子どもの表情も真剣だった。

その後、「試しの書」を書き、整った字に成長させるための出発点とした。

選んだ一字を硬筆文字で研究する際に、次の三点から分析するように確認した。また、どこに目をつけたらよいか具体的に支援ができるよう、子どもたちが選んだ漢字を三つの観点ごとに分類しておいた。

- ① 上下・左右等の大きさ―育・和・遅など
- ② 画の長さ―幸・生・孝・など
- ③ 画の向き―力・大など

これらの観点から自分の字を分析研究したり、グループ内交流を行ったりすることで、自分の課題を具体化することができた。そして、その課題に留意しながら練習・清書を行った結果、以前よりも整った字になったと自己評価した子どもが九割であった。

反面、筆使いについての課題も見え、習得すべき内容の完全定着の難しさを感じた。

色紙に向かい、まさしく筆を下ろそうとするその瞬間。教室は静まりかえり、まるで呼吸さえも止まっているかのような緊張の時である。

ある。私は、この瞬間がたまたまなく好きである。目まぐるしく過ぎていく毎日だからこそ、この瞬間が大切にされるべきだと強く思う。



四 おわりに

「活用力」を見越した授業実践を行うようになって改めて思うことは、基礎基本の完全習得の必要性及び重要性である。「どんな力を活用させたい」のか、そのために「どんな内容を習得させておくべき」なのか、しっかりと見極めながら実践を重ねていきたい。

また、どんなに技術が進歩しようとも自ら筆を取って書いた字にこそ「思い」はより深く込められるということを信じていたい。

つかもと やすよ 「活用力」を育成するための授業のあり方について、日々模索しながら実践を行っている。子どもたちの「わかった！なるほど！」のことがエネルギー源。

## 言語活動が生きる授業づくり ～敬語の習得・活用を通して～

長崎県佐世保市立小佐々中学校 前田 和子

### はじめに

国語教師として、言語活動を充実させ、国語の授業での学びが社会生活の中で生きて働く授業をしたいと考えている。生徒の一人一人が、ことばの使い手として、相手や目的、多様な場面に応じて適切に表現したり、理解したりする力をつけることをめざして、日々の実践に取り組んでいる。

**\*身につけたい力\***

敬語についての理解を深め生活の中で適切に使えるようにすること。

〈学習指導要領 二・三学年 言語事項(1)キより〉

今回は、この力をつけることをねらいとした実践を紹介する。

### 1 単元設定において

① 実生活の中で敬語を上手に使っていると  
思っている生徒は80名中3名と少なかった。

また、生徒が使っている敬語のほとんどは  
いねい語であった。生徒たちにとって、敬語  
は堅苦しく難しいイメージがある。しかし、  
使えるようになりたいと思っていることもわ  
かった。

② 敬語について考えてみる。敬語は、敬意  
表現の一つであり、相手や場面によった使い  
分けを必要とする。人は、ことばを用いて自  
らの意志や感情を人に伝えるとき、相手や周  
囲の人と自分の人間関係や社会関係について  
の気持ちのあり方を表現する。相手を敬いな  
がら、相手に自分を表現し理解してもらうた  
めに、敬語を必要とする。敬語の学習は日常  
のことばを見直し、ことばの力を実感するこ  
とになる。

③ ことばの知識としての理解を私たちは習得  
と思っただけではなかったか。基礎的・基本的な言  
語の知識の理解は必須である。ことばは、理解  
するだけでは意味をもち、使うことで力をも  
つ。それを「敬語を使おう」でどう展開するか。

そこで、自分の発したことばに対する相手の  
反応を確かめるような言語活動を考えた。知  
識として理解した敬語を使う。理解した知識  
を活用することで知識は定着し、実生活の中  
で使われる。これが真の習得になる。

**\*実践例「敬語を使おう」(全体計画)\***

① 敬語の働きについて知る。

② 敬語の文の中の働きを理解する。

③ 「敬語でインタビュー」発表準備

i 敬語を使った質問・応答準備

ii 敬語表現を見直す。

④ 「敬語でインタビュー」(発表)

### 2 指導にあたって

① なぜインタビューか。言語活動の場の設  
定が問題となる。人と初めて出会う、もしくは  
は改まって出会うとき、日常の中の新鮮さを  
生徒は感じる。そういった場面で生徒は自分  
や他者をあらためて知る。「出会い直し」の  
場としてインタビューを考えた。あらためて

相手を理解し、自分を表現し理解してもらうために、新たな関係を築く必要性が生じる。このときに敬語の使用が有効となる。

対話が効果的に仕組まれたインタビュース通して、生徒は、新しい人間関係を生み出している実感をもつ。生徒は、ことばを豊かにするだけでなく、将来出会うさまざまな人間関係や場面において適切に自己を表現できる力をつけていく。

② インタビュアの質問準備を行った後、どのような敬語が使われているかを見直す時間を設けた。一つの内容について多様な敬語表現があることに気づかせ、それをあえて使わせた。ことばのもつ微妙な語感を感じさせるためであり、そのことにより表現を豊かにしたいと考えた。

(例)「〜と思った理由は何ですか。」

- ・理由をお話していただけませんか。
- ・理由を伺ってもよろしいですか。

③ 活動は四人一組で行った。インタビュアの二人組に評価者と記録者を設けた。質問する生徒の評価をすることで、

★四人の役割

A 中学生  
B ゲスト  
C 評価者  
D 記録者

他者の敬語の使い方が適切であったか客観的に判断する。評価し客観的に価値づけることは自己を高める。記録することは、他者の表現をなぞ

り、吸収することになる。難しいと思わせてしまう敬語の学習の中で、学び合うことを通して敬語を使えるという自信を育てることをねらった。

### 3 生徒の変容から

「今後の生活の中で、敬語を使うことができそうですか」という質問に対して、生徒たちの九割が使えろという意識をもった。単に「敬語について理解した」だけで終わらずに、敬語の有用性とともに「使える」という自信をもったことが嬉しい。また、時と場に応じた敬語が使えなくてはいけないことや、人とのコミュニケーションの取り方、社会生活の中のことばについて考えた感想が聞かれた。一方、謙譲語に対しては、難しいと感じた生徒が多く、「理解はしたものの使えそうにな」とした生徒が三割ほどいた。敬いの気持ちから自分をへりくだって表現することは、生徒の実生活の中で想定しにくいのだろう。

\*生徒感想\*

・敬語を使うと自分もきれいになった気がしました。きれいな心で相手とコミュニケーションをとることができて楽しかった。

・大人になったとき、今回勉強したことが使えたらカッコいいと思った。

生徒はことばの力も感じた。

今後の生活の中で敬語を使うことができますか。	A 思う	B まあまあ思う	C あまり思わない	D 思わない
	20	52	8	0
謙譲語について理解し使うことができましたか。	A 思う	B まあまあ思う	C あまり思わない	D 思わない
	12	33	25	10

(単位：人)

れることが確信できた。

### 最後に

言語活動の充実を目指して、さまざまな工夫がなされている。それらに共通するのは、生徒に身についた力を実感させることである。さらに、有用感、有効性を感じさせることが、生きて働くことばの力に結びついていくと考える。今後も、確かな国語力の定着をめざした工夫と実践を重ねていきたい。

また、かすこ コミュニケーションの基盤となる言語活動の実践に取り組んでいる。「ことばの学びを拓く」(苦の会)にて実践執筆。

言語事項の学習は知識中心の学習になりがちであるが、ことばの力を感じる表現の場が工夫できたと思う。このことにより、生徒は自分のことばを獲得し、その自信につながった。生徒は、敬語の有用性を感じ確実に習得した。今後の社会生活の中で活用さ

## 書写の授業における年賀状の作成 〜毛筆による実践〜

栃木県上三川町立上三川中学校 伊澤 幸子

### はじめに

学習や部活動、その他それぞれに多忙な毎日を送る中、伝統行事の一つである年賀状を授業で取り扱うことで、実生活につながるという意識をもち、意欲をもって作成するのではないか。また、自分だけではなく送付する相手を意識して書くことで、より主体的に取り組めるのではないかと考え、課題を設定した。

### 課題名 毛筆の年賀状を送ろう 書写の学習に対する生徒の興味、関心

書写の授業が好きであると答えた生徒は全体の七割であった。その理由として、文字のバランスがとれ、よい書作品ができるとうれしくなる、自分の文字を見直せるし上手になるのでよい、書道教室でやるよりも自由に書けるので楽しい、気持ちが悪く着くからなどがあった。中には墨の匂いが好きだからとい

う生徒もいた。

その反面、三割の生徒が準備に手間がかかると、服が汚れる、毛筆は苦手という理由から嫌いであると答えていた。

### 年賀状作成についての指導計画

(三時間扱い)

- 一、年賀状の書き方、資料提供、どのようなことばで、どのように書くか。
- 二、レイアウトを含め、選んだことばを小筆で練習する。
- 三、年賀状を完成し、交流する。

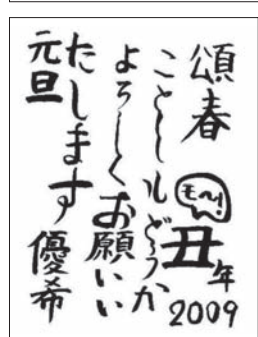
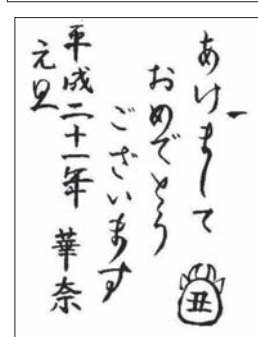
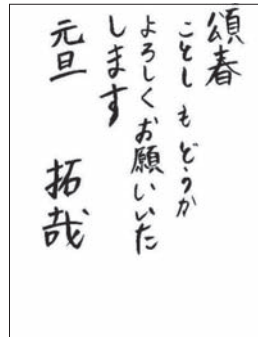
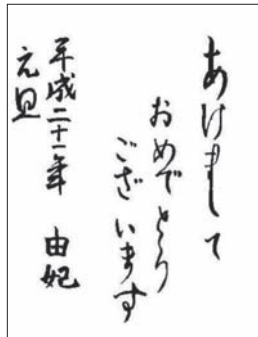
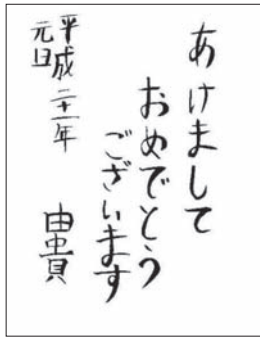
### 年賀状の資料作成について

お手本となる資料は、書写の教科書にも掲載されているが、あえて一般向けの書道雑誌『墨』より資料を選び、生徒に提供した。生徒たちは古筆といわれる仮名を目の当たりにし、ため息が漏れるような一面もあった。また、多少、背伸びをしたお手本となる書を紹

介し、今まで見たこともなかった卓越した書の文字に触れ、このような素敵な文字をぜひ書いてみたいというような意欲がうかがえた。

### レイアウトも含めた練習について

生徒がそれぞれに選んだ書き方とお手本を見ながら一線一線忠実に書くために、教師からの指示として、小筆の持ち方や枕腕法にして書くことで筆が真っ直ぐに立ち、筆の中心を生かした手法になること。また、連綿については多少困難もあるが、穂先を生かし、次の一画に続けて書くように心がけると、流れを止めずに書けることなどを話した。また、レイアウトについては、文字の置き方、大きさ、余白の美しさなどを話して、練習に入った。生徒は普段の書写の授業よりも黙々と練習し、静寂な空間が作られた。指導はあくまでも個別になるが、時折、近くの座席の人と交流の時間をとり、それによってさらに上達



したいと集中する生徒たちが多かった。生徒たちが一番難しく感じたのは、連続であったようだ。穂先を生かし、緩急の流れをつけることはかなり困難だった。しかし、出来上がったときの感動はかなり大きかったようだ。

### 交流について

生徒たちが心を込めて仕上げた一枚、それは各担任の先生方に送る年賀状だった。それ故、いつになく真剣に精一杯取り組んだように思う。完成した年賀状は廊下に掲示し、一学年全員が見られるよう配慮した。すると、生徒たちは休み時間にじつくりと観察し、翻って自分の書はどうかという振り返りができたようだ。その後、各担任の元へ発送した。

### おわりに

毛筆による年賀状の作成は楽しかった、おもしろかったと答えた生徒は全体の75%に上り、

初めて毛筆で年賀状を書いたことが最大の理由だった。自分の世界観が広がった、新鮮な気持ちで取り組めたという感想もあった。また、パソコンや印刷の年賀状が多い中、心を込めて書いた一枚は、自分でもうれしく思ったなどという生徒もいた。その反面、25%の生徒が、難しく、あまり楽しくなかったと答えていることも実態としてあった。この数値に見られる生徒たちの率直な思いを、今後の指導に役立てていきたい。

学習指導要領に(2)「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の(2)に示す事項について、ア文字を正しく整えて早く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること、とある。この項目に鑑みても、この計画を立てたことは私自身の中でもよい経験になった。毛筆で年賀状を書くということが初めての経験という生徒がほとんどであり、真剣に取り組む姿勢にやりがいを感じた。また、どの生徒も数時間学んだ後の書は格段の差があり、やり続けることの大切さを実感した。今後も楽しく意欲的に取り組める授業の展開を模索していきたい。

いざわ さちこ 継続は力なり、生徒たちの無限の可能性を信じて、ともに楽しく学んでいます。

# 子どものことばが 教えてくれたこと

第2回

鳥になって

岩 辺 泰 吏



持ち上がりで六年生を担任した四月。ゆかが自由日記にこんな詩を書いてきた。

鳥になって

鳥になって

空を飛びたい

鳥になって

自由に歌いたい

……

(詩は部分)

私は「みんな、こんな思いを浮かべるのではないだろうか」ということばを添えて、学級通信に載せ、読みあった。

——私も同じことを思うことがある。

——自分も遠くまで飛んでいきたいと思うことがある。

……

……

など、共感のことばが寄せられた。それから一カ月もたない月曜日の朝。全校朝会が終わると、一年生から順に教室に戻る。最後に六年生が、なんとなくおしゃべりしながら玄関に入るのを待っている。その列がみんな入るのを

そつとやり過ごして、ゆかが私のそばに寄ってきた。

「先生、みんなが 私のことを はずすの……」

そう言って、見上げた目にはもう涙があふれていた。日直の子に、ワークブックの自習を伝えると、保健室の隅を借りて話を聞いた。

前年度末、彼女は口の周りにヘルペスができた。その治療のために紫色の塗薬をつけていた。マスクをしていたが、それはクラスメートにもわかることだった。彼女と相談して、給食のときは保健室で食べることにして、子どもたちにも説明した。ゆかは元来、独立心の強い粘り強い子で、そうした間も休むことはなかった。

しかし、男子たちから、「あいつの使った水道の蛇口は飲まない」とか、「お前の配った牛乳は飲まない」などといういやがらせが生じ、次第におしゃべりの輪からも外されるようになった、それがヘルペスはすつかり治った後まで続いているということである。

ゆかに、相談相手にしたい女子の何人かをあげてもらい、休み時間に話を聞いてみると、子どもたちはわかっていたのである。「知らぬは教師ばかりなり」という状態であった。放課後には女子全員の相談会をもち、翌日、臨時の学級会を開いて話し合った。ゆかは自分のつらい気持ちを日記に書いてきて読み上げてくれた。

いわなべ たいじ 読書のアニメーション研究会  
(アニメーションクラブ) 代表。元葛飾区立飯塚小  
学校教諭。

アニメーションの方法と思想を応用して、読書啓  
発をはじめ、国語および学習全体の改革へのチャ  
レンジを続けている。

その中でわかってきたのは、事の始まりは女子  
の中から起こったことだった。ゆかは、あ  
まり器用にすばやく物事を理解しこなすというよ  
りは、努力を重ねて獲得していくタイプである。  
体育も苦手な方だった。文字は楷書できつちりと  
書く。私が赤ペンを入れるのが恥ずかしくなるよ  
うな整った文字である。そして、日記も自由提出  
とはいえ、ほぼ休むことなく続けている。国語単  
元の新出漢字十数文字を使って、連載ふうに見  
物語を書いたり、詩を書いたり、私には  
とても楽しい読み物ともなっていた。

そういうことが、別のリーダー格の女子えみの  
やっかみを生んで、ヘルペスを機会に男子をあ  
おつていじわるが広まったのであった。えみは大  
好きで打ち込んでいた太鼓クラブをやめさせら  
れ、私学受験に追いつめられる毎日に入っていた。  
えみも器用にこなすタイプではなく、次第に持ち  
前のおしゃべりな明るさを失っていく様子が見え  
ていた。私は何度か、お母さんと話し合いをもつ  
たが、耳を傾けてはもらえなかった。

事の経過が明らかになって、この件はつきもの  
が落ちたように、ほっとした空気が教室に生まれ  
ていったのだが、担任としては恥ずかしいこと  
だった。ゆかは、苦しい教室の中から、逃げ出  
たいという気持ちで、「鳥になって 空を飛びた  
い」とうたったのだ。好きな音楽の時間も、なん

となくしらけ、声を響き合わせることがなくなっ  
てきたことをさみしく思っていたのだ。

退職して、ある大学教育学部での授業でこの詩  
を取り上げ、担任になったつもりで「赤ペン(メッ  
セージ)」を書いてもらった。

すると、三分の一ほどの学生が、「心にもって  
いる重いものを、先生にも聞かせて」という内面  
への共感を書いていた。六年生のころ、自分も同  
じような体験からこのような詩を書いたことが  
あって、「ここから離れたい」「遠くへ飛んでいき  
たい」と思ったという。

普段の授業では表に現れない学生の内側を、少  
し知ることができた。彼らが「教師になろう」と  
する思いに、子どもに寄せる共感を見て、とても  
うれしく思ったことだった。

\*児童名は仮名。

# 「音」と「文字」を 連動させる

「キッズクラウン英和／和英／英和・和英辞典」編者

下 薫

## 今回の辞書



キッズクラウン  
英和／和英／英和・和英辞典  
三省堂／2003・2004年

### 一 子どもが英語辞典と出合うとき

児童英語教室で小学校三年生に初めて『キッズクラウン英和辞典』を渡したときのことだ。学校で国語辞典の使い方を学んでいるこの学年は、辞書に関心の高い子どもが多く、各々目を輝かせながらページを開き始めた。

子どもたちは「反対からページをめくるんだ」「英語と日本語の両方が書いてある」などと国語辞典との違いを口々に言った後、「あかさたな、じゃなくてABCって書いてある」と、だれかが見出しのABCの文字に気がつくくと、やがて全員でABCの歌を歌いながらページをめくり始めた。

### 二 「音」から「文字」へ

児童英語の学習者は、歌を歌い、絵本の読み聞かせを聞き、会話をするなど、英語を「聞く」「話す」活動に慣れてくると、やがてアルファベットに興味を持ち始める。小学校中学年になって、学校でローマ字を習い出すとその関心はますます高まる。この時期に合わせて、クラスでは少しずつ文字に親しむ活動を導入する。それは単語の読み方を教えたり、アルファベットをノートに書かせるような「文字学習」ではない。「好きな絵本を読みたい」「友達に誕生日カードを書きたい」「ゲー

ムのやり方を調べたい」など、自ら英語で「読む」「書く」をしたいという気持ちを生かす活動である。そんな子どもたちをサポートする教材として『キッズクラウン英和／和英／英和・和英辞典』（以下『キッズクラウン』）がある。

### 三 『キッズクラウン』の特徴

小学校英語の必修化に先立ち、現在全国の小学校で英語活動が実施されている。文部科学省が提示する小学校英語活動の目標をまとめてみると、(一) 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ、(二) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る、(三) 言語や文化について体験的に理解を深める、とある。<sup>1)</sup> この三つの目標に沿って『キッズクラウン』の特徴を述べていきたい。

#### (一) 音声に慣れ親しむ

英語の音声に慣れた子どもたちが初めて使う英語の辞典は、読みやすく、引きやすいのももちろんのこと、「音」と切り離された「文字」だけの辞典であってはならない。『キッズクラウン』は、「文字」に触れていても常に「音」が聞こえてくる工夫としてCD音源を付けた。このCDには歌やチャントだけでなく、用例の「リズム読み」と会話例が収録されている。歌はalphabet(アルファベット)



の項に「A B Cの歌」、bridge (橋) に「ロンドン橋」など、全部で三十曲入っている。用例の「リズム読み」とは例えば、bag (バッグ) に「a paper bag, a school bag, a handbag (紙袋、学校かばん、ハンドバッグ)」と小学生の身の回りのバッグを三つ並べ、リズムを付けた音声で収録した。またball (ボール)では「catch the ball, throw the ball, bounce the ball (ボールをとる、投げる、はずませる)」とボールに関する動詞と組み合わせた用例になっている。子どもが文字を読むうとすると、今まで言えていた自然な発音やリズムが崩れ、読む速度も遅くなる。「リス



ム読み」は三つの短いチャンク(単語の固まり)を、強勢を意識し、リズムをつけて一気に言うことで、「音」と「文字」を連動させているのだ。

### (二) コミュニケーション能力の育成

CDには会話例も多く収録されている。birthday (誕生日)では、「誕生日はいつですか?」という用例の他に、イラストには誕生日パーティーの場面が描かれ、そこに関連語が紹介されている。さらにパーティーの場面で使える会話例がCDに収録されている。単語は、実際に会話で使えるものを意識して選び、その一つの単語を、句、文、会話レベルへと発展させる工夫をした。

### (三) 多文化理解の調べ学習

英語の辞書を読む子どもたちは、新しい言葉や知らない文化との出会いをワクワクして待っている。sound (音)ではAhchoo. (ハクション)・Oops (おっと)・Ouch. (痛い)・Uh-huh. (うん)などの言葉の違いを面白がり、bread (パン)ではBread Around the World (世界のパン)としてtortilla (トルティーヤ)・nan (ナン)・taco (タコス)などいろいろパンを使った料理を調べられる。

世界の文化の違いばかりでなく、global issues (世界が共通に抱える問題)についても調べられる。recycle (リサイクル)では、The 3R's (リサイクル、減らす、再利用する)

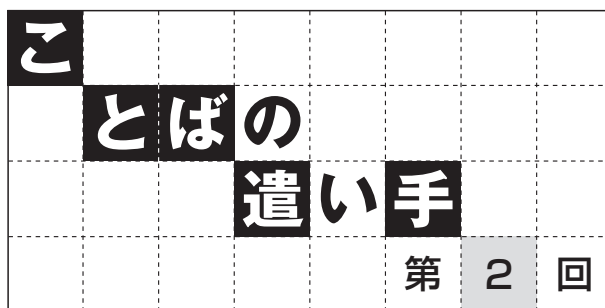
とともに、PET bottle (ペットボトル)、cardboard (ボール紙)などゴミに関する単語が掲載されている。その他、巻末のテーマページには日本の祭り、食べ物、スポーツなど、日本文化を英語で紹介するための単語が載っている。

## 四 「なぜ?」の気持ちを大切に

先日、五年生の子どもが「How do you say koryu in English?」(恐竜は英語で何と言うの?)と聞いてきたので「Look it up in your dictionary.」(辞書を調べてみて)と言って和英辞典を渡した。すぐに「きょうりゅう」の項を見つけて、「ダイノソー」とカナ表記を読みながら発音し、「I like dinosaurs!」(僕は恐竜好き!)と教えてくれた。子どもの英語のクラスは「What?」「Why?」「How?」の質問であふれている。新しい言葉や文化と出合ったときに出てくるこの「なぜ?」を大切に、子どもが自分で調べ、答えを見つめる環境づくりを心がけていきたい。

\*1 文部科学省HP <http://www.next.go.jp>

しも かおる 上智大学外国語学部卒、コロンビア大学ティーチャーズカレッジ英語教授法修士課程修了。マジカルキッズ英語研究所代表。



## 脚本家のことば

「天が呼ぶ 地が呼ぶ 人が呼ぶ 悪を倒せと  
俺を呼ぶ 俺は正義の戦士 ○○○○！」  
「ズバツと参上、ズバツと解決！ 人呼んで、  
さすらいのヒーロー △△△△！」

これは子ども向け特撮ヒーローもののセリフだ。町を壊し市民を蹂躪しつつ悪役。そこに、変身した正義のヒーローがさっそうと登場、ポーズを決めて悪役の前に立ちふさがる…。

ここでヒーローは上記のような名乗りのセリフを吐くのだ。

映画やテレビドラマの台本は、場面の状況を指定する「ト書き」と登場人物の話しことばである「セリフ」で構成される。

ドラマを成立させる要素としては、セリフのほうがり重要であり、脚本家はセリフづくりに最大限の力を注ぐのだという。

セリフの役割には、

- ①ドラマの進行
- ②人物の感情表現
- ③人物の性格表現
- ④場面・状況の説明

がある。

脚本家は、この役割を常に意識しながら、登場人物のキャラクター、場面や筋書きなどの設定に従って、観客・視聴者の感動を引き出すようなセリフをつむぎだし、構成していくのだ。

それは、小説のような文学作品を創造するこ

とは違う。映画やドラマという、いわば建造物を完成させるための「図面を書く」作業だ。

脚本家は、一つ一つのことばを丹念に選んでセリフに編んでいく、職人のようなものだ。

例えば、自分の呼称を「俺」と「私」など使い分けることで、性格だけでなくそのときの感情なども表せる。また、一つの文を切り分けて、複数の人物に語らせることで、場の緊張感を表したり、ドラマの進行にテンポを生み出せる。

さて、冒頭のセリフ。悪役の暴虐をさんざん見せつけられた子どもたちにとっては、ここからヒーローが大活躍、胸がわくわくする大きな転換点となる場面だ。脚本家も練りに練ってつくったセリフだろう。

ところでこの言い回し、何かに似ていないだろうか…。そう、時代劇によくある言い回しである。

実は、特撮ヒーローものの脚本は、その草創期（1960～70年代）は、時代劇映画の脚本家が書くことが多かったという。そう考えると、ドラマの筋立てや登場人物の設定など時代劇によく似ている。登場するときのポーズは、歌舞伎の見栄そのものだ。五人の戦隊ものの名乗りは白浪五人男だったのか…。

取材協力：稲葉一広（脚本家）



# 三省堂 例解国語辞典 第四版

田近洵一 編 | 1,995円(税込) / B6判 / ISBN978-4-385-13821-3  
[ワイド版] 2,205円(税込) / A5判 / ISBN978-4-385-13822-0

- ▶すべての漢字にふりがなが付きで、1年生から使える。
- ▶新開発の用紙で、20%の軽量化を実現。
- ▶類書中最軽量で、最大級の33,000語を収録。
- ▶豊富な用例・図版や例解コラムに加え、特設コラムをさらに充実。
- ▶地名・人名も取り上げ、他教科の学習にも活用できる。
- ▶常用漢字をすべて収録、くわしく解説。付録に、イラストで楽しむ「くらしの中の英語」ポスター。
- ▶2色刷。文字が大きいワイド版も同時刊行。



# 三省堂 例解漢字辞典 第三版

**新装版**

林 四郎(主幹), 大村はま 編

1,995円(税込) / B6判 / ISBN978-4-385-13817-6  
[ワイド版] 2,205円(税込) / A5判 / ISBN978-4-385-13818-3

- ▶新開発の用紙で20%の軽量化を実現。
- ▶類書中最軽量で、最大の3,000字を収録。
- ▶最新人名用漢字983字にも対応。常用漢字は筆順を明示。
- ▶漢字の字義ごとに熟語を分類する画期的方式で漢字の意味の広がり把握。
- ▶豊富な[例][表現]欄、充実したコラム、多彩な付録。
- ▶さくいんとしても使える「小学校で学ぶ漢字一覧表」ポスター・「漢字辞典引き方ガイド」シートの二大特別付録つき。
- ▶2色刷。文字が大きいワイド版も同時刊行。

## 編集後記

今年、国民読書年。読書を推進する運動は、学校の外でも、ボランティア活動を中心にした「読み聞かせ」、「ブックスタート」、本屋さんの取り組みである「サン・ジョルデイの日」、「本屋のオヤジのおせっかい」、「孫の日読書推進運動」など、さまざまな取り組みがあります。

本を読むこと自体は個の作業であり、その楽しさも、つきつめて言えば自分で発見する以外に方法がないのでしよう。であれば、読書推進のためにできることは、より多くの本との出会いをつくること以外にないのかもしれない。しかし学校では、友だちと同じ本を読む、本を読む場を友だちと共有するといった、ほかでは難しい活動を実践することができます。今号でも、学校が集団の学びの場であることを活かして、読書の楽しさを伝えられる実践をご紹介しました。

(太郎)

三省堂 国語教育 **1111の字で** 第22号

二〇一〇年四月一〇日発行  
定価 一〇〇円(本体九六円)

〔発行所〕 株式会社 三省堂

編集・発行人 八幡 統厚

〒一〇一-八三七-一  
東京都千代田区三崎町二二二-一四

TEL 〇三(三三三)〇九四二七(編集)

振替 東京 〇〇一六〇五五四三〇〇

〔印刷所〕

泰成印刷株式会社  
東京都墨田区両国三二一-二二

40年を超える創作活動で生みだされた、  
児童文学の代表作を集大成!

# あまん きみこ セレクション



- 1 春のおはなし
- 2 夏のおはなし
- 3 秋のおはなし
- 4 冬のおはなし
- 5 ある日ある時



●挿画担当画家 西巻茅子 村上康成 黒井 健 渡辺洋二 牧野千穂

●各巻の仕様 判型：A5判  
頁数：320ページ（第1巻～第4巻）・336ページ（第5巻）  
定価：2,100円（税込）・セット定価10,500円（税込）

季節感あふれる「あまんワールド」の特長を生かし、作品を春・夏・秋・冬の4巻に分けて収録しました。  
第5巻には、エッセイ、年譜、著作目録が収められます。また、どの巻も、個性ゆたかな挿画で飾られます。

詳しくはwebサイトをご覧ください ➡ <http://www.sanseido.co.jp/>

回  
覧

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--